

主任教授からのメッセージ

外科の魅力は、自らの知識と技術で患者さんを治し命を救えることです。非常にやりがいのある仕事ですが、きつくて厳しいと感じている人が多いと思います。しかし現在、外科学講座では、男女を問わず教室員が生き生きと活躍し人生を楽しめるように、皆の意見を聞きながら職場環境・文化の改善を図っています。例えば、メンバー個々の体力や考え方を配慮し、家庭のことや子供のことを相談しあい、そして助け合う風土を育てたいと思っています。私が赴任して2年足らずですが、皆の意識に変化が生じてきたと感じています。その変化の大きな原動力となっているのが女性医師の存在です。今後も多くの女性に加わっていただき、さらに新風を吹き込んでほしいと期待しています。

外科は女性には向いていないといった印象がありますが、最近10年の外科入局者27人中40%の11人が女性でした。将来は女性医師がさらに増え、外科学講座をリードする力となってくれることでしょう。

○ 診療科の特徴

外科学講座の中には肝臓外科、胆膵外科、消化管外科、小児外科、乳腺外科のグループがあり、それぞれ専門分野の診療、研究、教育を行っています。全国的に外科医不足が問題となっている反面、どの科よりも危機感を持ち働き方改革や労働環境の改善に力を入れています。外科医を志望する女性医師の割合はむしろ増加しており、当科でも女性医師が第一線で活躍しています。各診療科により手術や診療、研究もさまざま働き方の選択肢はとてたくさんあります。

○ 診療科で働く女性医師

当講座には現在女性医師が、消化器外科に2名、乳腺外科に7名、小児外科に2名在籍し、そのうち2名が大学院生、1名が産休中です。さらに3名の女性医師が入局予定で、産休中の医師も落ち着けば復帰される予定です。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

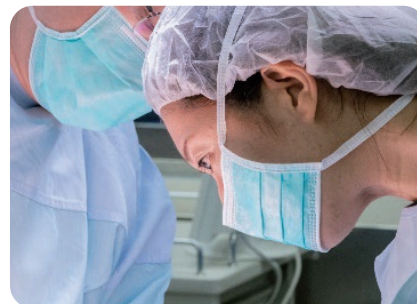
どのような勤務形態で復帰するかは、本人の体調、希望などに合わせて相談して決定します。産休明けには、大学の内規に従い、勤務を開始します。

○ 研修内容

外科		指導下	独立
シミュレーション	希望される検査、処置、手術手技	休み期間中や復帰後適宜に始動します	自身のみでの練習も可能です
検査	上部消化管内視鏡	1か月 (休み前の経験度で異なります)	2か月以降(最短)
手術	腹腔鏡下手術		
	局麻手術・処置		
	全麻開腹手術		
外来	検査		
	一般外来		
	科別専門		
病棟	入院患者受け持ち		
	救急対応(日勤)		

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性医師の割合は増えている一方で、日本では職種にかかわらず諸外国より女性の職場復帰率が低いと言われてい
ます。ならば、復帰したい職場、復帰できる職場にしなければなりません。やりがいのある仕事、不安や悩みを相談しサポ
ートし合える職場、笑顔で働ける職場になるようスタッフ一同努力しています。女性には結婚、出産、介護など色々な悩
みがあると思いますが、仕事と両立していくことでより充実した人生になり、新たな考え方や世界が広がることもあ
ると思います。まずは不安なこと、疑問などなんでもご相談下さい。



▶ 復帰した医師の声

体験談 (M先生)

医師7年目で1人目を出産し、9か月の育休を取得しました。育児への不安もあり、まずは週3日の勤務日数で復職
しました。復職後はブランクもあり、外来をこなすだけでも、不安や焦りがありました。が、気軽に相談に乗ってもら
ったりと温かくバックアップしていただきました。また、子供の急病で早退や欠勤も多いですが、周りの先生の配慮もあり、
仕事も育児も両立することができています。乳腺専門医取得のための症例集めなど、キャリアアップに関しても気軽に
相談に乗ってもらえます。

また、保育園に関しても総合医療センターのすぐ近くにある院内保育所に入園させることができ送迎もしやすく、
たまに子供のお散歩タイムに遭遇しほっこりすることもあります。

現在は医師8年目で2人目の産休中です。1人目復職時に柔軟に対応してもらえたので、特に不安なく休みに入る
ことができました。

それぞれの家庭環境に合わせて、働き方を選べるので復帰しやすい環境だと思います。

● 講座ホームページ

外科学講座 HP <http://www3.kmu.ac.jp/surg/index.html>

外科女性医師からのメッセージ <http://www3.kmu.ac.jp/surg/pg737.html>